

男たちが待ち構える混浴露天風呂へ、 彼女を連れていった

大学4年の俺は、3年ほど付き合っている女性がいる。

同じ大学の同じ学部の女子、森園美弥(仮名)だ。

美弥とは、1年のときの基礎ゼミで同じゼミだった。

生徒番号が近かったので、語学の授業もほとんど同じだった。

履修する授業も多くかぶっていたので、自然と話をするようになり、1年の秋くらいに美弥から付き合わないかと告白された。

正直、俺は美弥のことをそこまでいいとは思っていなかった。

ブサイクというわけではないけど、美人だとは言い難い。

でも、俺は美弥からの告白をOKして、付き合うことになった。

単純にうれしかったし、俺にとっては美弥が初めての彼女だった。

当然、俺の初体験の相手も美弥になった。

美弥の方は、高校生のときに済ませているみたいだったけど、その話を俺は詳しくは聞かなかった。

美弥と付き合うことは、俺にとっては普通に楽しかった。

いろんなところにデートに行ったりしたし、大学

が休みの時期に2人で旅行に行ったりもした。美弥のことは、段々好きになっていったけど、美弥と結婚するとかそんなことは、正直考えられなかった。

言い方は悪いかもしれないけど、大学時代を彼女持ちとして過ごすうえで、ちょうどいい相手だと思っていた。

3年も付き合っていると、正直飽きてくる。美弥のあまり好きでないところとかも見えてくる。

美弥のことを何度も抱いているので、身体にも飽きてきている。

あまり勃たなくなってきたのだ。

これはそもそも、好きな相手ではなかったのと、単純に飽きてきているのと、その両方あると思う。

その両方があいまって、さらに勃起しなくなってきた。

大学4年になって、お互いに就職活動も無事に終わった。

俺はもう、別れようと美弥に言おうと思っていたのだけれど、美弥は全くそんなつもりはないのか、旅行に行くことを誘ってきた。

「今度はG県に行こうよ。2人とも就活終わったんだし、ゆっくりしよ」

美弥が言う。

俺は気持ちが進まなかった。

実はG県には、偶然つい最近1人で旅行に行

ってきたばかりだったからだ。

最近は美弥と一緒にどこかに行くよりも、1人で行く方が気が楽だった。

でも、1人旅をしていることは美弥に伝えていないし、当然、最近G県に俺が行ったことは美弥は知らない。

だから、断る理由もなく、旅行に行くことを俺はOKした。

この旅行のときに、別れを切り出そうかなと思っていた。

以前、1人でG県に旅行に行った帰りの道中に混浴の露天風呂があった。

G県の旅館でも露天風呂があって入った後だったけど、時間もあったので、俺はその混浴露天風呂に立ち寄ってみた。

無料で誰でも入れるようだった。

それでも手入れとかは、してあるみたいで、意外ときれいだった。

男女別の更衣室を出て、タオルも何も用意していなかったなので、全裸で露天風呂へと入っていく。

ワンチャン、女の人がいるのかなと期待していたけど、中にいたのは、男ばかり5人だった。

何となく、その5人の男たちと湯船につきりながら世間話をした。

話を聞いていくと、その5人は所謂、ワニなんだそうだ。

混浴露天風呂にずっと息をひそめるようにい

て、女性が入ってくるのをひたすら待っている男のことだ。

「最近は、なかなか来んのよ」と1人の男が言う。

たぶん50過ぎくらい。肌がものすごく汚い。

「来たとしても、おばさんだよ」と別の男が言う。

「でも、たまに若い女子2人連れとかが来るよ」とまた別の男が言う。

「でも、一番いいのは、若い女子が1人だよ」とまた別の男がにやけながら言った。

「若い女の子1人だと、こちらもいろいろとできるからねえ」とまた別の男が言う。

「いろいろって何をするんですか？」と俺は尋ねた。

男たちの話によると、初めは親し気に話しかけて、徐々に近づいていき、体を見せてもらうように持っていきらしい。

その後、いけたら体を弄んで、レイプに近いことまでやったことがあるそうだ。

「それって、思いっきり犯罪じゃないですか。今まで警察沙汰になったこととかはないんですか？」と俺がさらに尋ねる。

「そんな、物騒なこと言うなよ、にいちゃん。そりゃ、黒か灰色かでいったら、黒だよ。でも、女の子たちも、恥ずかしいんだよ。そういうことがあったって警察に言うのは。俺たち、その様子を撮影もしてるからさ。その映像が警察に回収されたとして、そんなとこ、もう、これ以上の人に見られたくないし、話したくもないだろ。

だから、別に大丈夫なんだよ」
要は被害女性側は、すべて泣き寝入りをして
いるということらしい。
とんでもない犯罪行為だ。

ろくでもない男たちだなと俺は思ったけど、正
直少し興奮してもいた。

全く同意のない女性を犯すことなんて、もちろ
んやったことはない。

でも、さぞかし普通とは違う感覚になるんだろ
うなと思う。

あと、こんな混浴露天風呂に、のこのこと来て
いるのだから、そういう目に遭っても仕方がな
いんじゃないかという気もしないでもない。

「にいちゃん、大学生か？ 誰かいない、同じ大
学生でこういうところに来そうな子とか」

1人の男が至って真面目な表情で話しかけて
きた。

俺は美弥のことを頭で思い浮かべた。

美弥がこの5人に露天風呂でレイプされている
情景を思い浮かべると、すぐさま勃起してい
た。

美弥のことを思って勃起するなんて久しぶり
だった。

そのときは、ただそれだけの会話で終わって
いたのだけれど、その美弥とG県に旅行に行
くことになった。

その道中は俺が車を運転する。

そして、その道中に、あの混浴露天風呂があ